

質 問 事 項	質 問 の 要 旨
1 被災者の医療費減免継続を	東日本大震災から５年９カ月が経過しました。い
	まだに多くの被災者が、仮設住宅やみなし仮設で暮
	らしており、今年度末でも４８％の方々が仮設暮らし
	をしいられているという状況です。
	近隣市町と比べても、災害公営住宅や自立再建で
	の入居の遅れがきわだっています。長引く仮設暮らしにより精神的なストレスもあり、体調不良や持病が悪化する方も多く、１日も早く仮設暮らしから抜け出したいとの思いは当然のことです。
	また高齢化率は３７％を超えており、介護サービスを利用しながら暮らしている方々もいます。
	今年１年は、町の判断により住民税非課税世帯限定で、医療費の減免が継続されましたが、５割近くが今もなお仮設暮らしという現状において、せめて来年度も被災者により添った福祉のところで、減免制度の継続を望むものです。
	そこで、次の点について伺います。
	(１) この１年間の医療費減免対象者の利用状況及び費用負担額について伺います。
	(２) 近隣の石巻市、東松島市等と連携し、国・県
	に対して財政支援の継続を働きかけるととも

質 問 事 項	質 問 の 要 旨
2 何よりも風評被害が心配	に、情報交換を密にしていくべきと考えますが、
	いかがですか。
	(3) 岩手県では来年12月末まで1年間被災者医療
	費の免除を延ばすと発表しました。岩手県議会
	9月定例会で達増拓也知事が、「多くの被災者が
	仮設住宅で不自由な生活を送っており、医療や
	介護サービスを受ける機会を確保する必要がある。」と説明（11月5日河北新報掲載）。後期高
	齢者医療制度の一部負担金免除と介護サービス
	利用料免除も1年延長するとしています。免除
	措置は8割が国負担、残り2割は県と市町村が
	折半するというものです。
	ぜひ宮城県に働きかけるとともに町独自でも
	引き続き減免制度の継続を実施すべきではない
	でしょうか。（質問の相手：町長・担当課長）
	宮城県の村井知事が県内の放射能汚染廃棄物を一
	斉焼却することを提案し、11月30日に議員全員協議
	会で町長から概要の説明を受けました。どう対応
	するかは、これからとのことですが、心配されるの
	は一番に風評被害です。広域クリーンセンターで一

質 問 事 項	質 問 の 要 旨
	齊に通常ごみと混焼処理を行い、焼却灰は各自治体等の最終処分場で一斉に埋立処理するとのことで、処理対象は、指定廃棄物を除く8,000ベクレル/kg以下の約36,000トンで、そのうち石巻圏域内の処理対象汚染廃棄物量は283.3トンと示されました。 そこで、次の点について伺います。 (1) 最終処分場である針浜の施設に埋立てされるとなると、何よりも風評被害が心配です。万石浦でカキ養殖を生業としている漁業者にとっては死活問題で、安易に受け入れることはできません。住民との話し合いを十分に行うべきであると思いますが。 (2) 焼却で放射能が拡散するとの思いがあります。医学博士の岩見億丈氏は環境省が主張している「安全」に根拠がないことを廃棄物資源循環学会で問題提起しています。専門家の意見にも十分に耳を傾けるべきです。 (3) 放射能の影響が可能性として否定できないのであるならば、全県の一斉焼却に手をあげるべきではないと考えますが、見解を伺います。 (質問の相手：町長・担当課長)

質 問 事 項	質 問 の 要 旨
3 女川温泉「ゆぽっぽ」 にカラオケの設置を	昨年の12月議会で「女川温泉ゆぽっぽをより良いものに」ということで、住民の声としてカラオケの設置を取り上げました。 その後、カラオケをこよなく愛する町民有志が、半年間かけてコツコツと町内をまわり、署名を集めました。そして、10月12日に「女川湯ぽっぽにカラオケ設置を望む女川町民署名簿」として543筆に思いを込めた手紙を添えて、町長、町民課長へ陳情しました。改めて、震災前から憩いの場、交流の場として親しまれてきたカラオケのあるゆぽっぽを望む町民の人たちの思いが一途であり、なんとか実現してほしいとの思いを強くしています。 そこで、次の点について伺います。 (1) 署名簿と手紙を受け取ったことで、町長及び町民課長は、町民の思いをどう受け止めていましたか。 (2) 昨年度は町内利用者が3割弱とのことでしたが、昨年度と比較して、今年の利用状況はどうですか。 (3) 今後、仮設住宅からの移動に伴い、使用しなくなったコンテナを再利用するとか、また駅前

質問者 阿 部 律 子

質 問 事 項	質 問 の 要 旨
	商店街のカラオケ店などにも配慮し、日中の利用に
	するなど智恵と工夫があれば、カラオケの設置は可
	能と思われますがいかがでしょうか。
	(質問の相手：町長・担当課長)